

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/国内/不動産投信 特化型 (課税上は株式投資信託として取扱われます。)	
信託期間	2014年7月28日から2025年10月24日	
運用方針	信託財産の中長期的な成長と安定した収益の確保を目指して運用を行います。	
主要投資対象	東京海上 J-REIT投信 (通貨選択型) 米ドルコース (毎月分配型)	わが国の不動産投資信託の受益証券および不動産投資法人の投資証券(J-REIT)を投資対象とする外国投資信託「Tokio Marine J-REIT Fund-USDクラス」と、主に円建て短期公社債およびコマース・ペーパーなどに投資する親投資信託「東京海上マネーパブルマザーファンド」を主要投資対象とします。
	Tokio Marine J-REIT Fund -USDクラス	わが国の取引所に上場(これに準ずるものを含みます。)されているJ-REITを主要投資対象とします。
	東京海上 マネーパブル マザーファンド	円建て短期公社債およびコマース・ペーパーを主要投資対象とします。
投資制限	東京海上 J-REIT投信 (通貨選択型) 米ドルコース (毎月分配型)	<ul style="list-style-type: none"> 株式への直接投資は行いません。 外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。 投資信託証券への投資割合には制限を設けません。
	Tokio Marine J-REIT Fund -USDクラス	<ul style="list-style-type: none"> 空売りを行った有価証券の時価総額は純資産総額を超えないものとします。 原則として、純資産総額の10%を超える借入れは行わないものとします。 同一発行体の投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の35%を超えないものとします。
	東京海上 マネーパブル マザーファンド	<ul style="list-style-type: none"> 株式への投資は行いません。 外貨建資産への投資は、円貨で約定し円貨で決済するもの(為替リスクの生じないもの)に限ります。
分配方針	第1期の決算時には分配を行いません。収益分配金額は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益および売買益(評価益を含みます。)等から、基準価額の水準、市況動向等を勘案して決定します。収益分配にあたっては、原則として毎決算時に分配を行うことを目指します。また、4月と10月の決算時に、委託会社が決定する額を付加して分配する場合があります。ただし、分配対象額が少額の場合等には、収益分配を行わないことがあります。収益の分配に充当せず、信託財産内に留保した利益については、運用の基本方針に基づいて運用を行います。	

東京海上J-REIT投信(通貨選択型) 米ドルコース(毎月分配型)

運用報告書(全体版)

第70期(決算日)	2020年5月25日)
第71期(決算日)	2020年6月25日)
第72期(決算日)	2020年7月27日)
第73期(決算日)	2020年8月25日)
第74期(決算日)	2020年9月25日)
第75期(決算日)	2020年10月26日)

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、「東京海上J-REIT投信(通貨選択型)米ドルコース(毎月分配型)」は、このたび、第75期の決算を行いましたので、第70期～第75期の運用状況をまとめてご報告申し上げます。今後とも一層のお引き立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

東京海上アセットマネジメント

東京都千代田区丸の内1-8-2 鉄鋼ビルディング

お問い合わせ窓口

東京海上アセットマネジメント サービスデスク 0120-712-016

受付時間：営業日の9時～17時

<https://www.tokiomarineam.co.jp/>

原則、各表の数量、金額の単位未満は切り捨て、比率は四捨五入で表記していますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値と一致しない場合があります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。
また、一印は組み入れまたは売買がないことを示しています。

○最近30期の運用実績

決算期	基 (分配落)	標準価額			債 組 入 比	券 率	投 資 信 託 組 入 比	純 資 産 額
		税 分	込 配	み 金 騰 落				
	円	円	円	%	%	%	百万円	
46期(2018年5月25日)	11,242	40		2.9	0.0	99.6	15,479	
47期(2018年6月25日)	11,346	40		1.3	0.0	99.6	14,952	
48期(2018年7月25日)	11,395	40		0.8	0.0	97.3	14,422	
49期(2018年8月27日)	11,439	40		0.7	0.0	99.6	13,747	
50期(2018年9月25日)	11,520	40		1.1	0.0	99.6	13,458	
51期(2018年10月25日)	11,502	40		0.2	0.0	99.6	12,710	
52期(2018年11月26日)	11,725	40		2.3	0.0	99.6	12,449	
53期(2018年12月25日)	11,325	40	△	3.1	0.0	99.6	11,127	
54期(2019年1月25日)	11,515	40		2.0	0.0	98.3	11,064	
55期(2019年2月25日)	11,950	40		4.1	0.0	99.6	10,699	
56期(2019年3月25日)	12,204	40		2.5	0.0	99.6	9,970	
57期(2019年4月25日)	12,255	40		0.7	0.0	99.0	9,610	
58期(2019年5月27日)	12,283	40		0.6	0.0	99.6	9,339	
59期(2019年6月25日)	11,948	40	△	2.4	0.0	99.6	8,848	
60期(2019年7月25日)	12,432	40		4.4	0.0	99.3	8,866	
61期(2019年8月26日)	12,785	40		3.2	0.0	99.6	8,818	
62期(2019年9月25日)	13,214	40		3.7	0.0	99.6	8,798	
63期(2019年10月25日)	14,010	40		6.3	0.0	99.2	8,923	
64期(2019年11月25日)	13,781	40	△	1.3	0.0	99.6	8,325	
65期(2019年12月25日)	13,307	40	△	3.1	0.0	99.6	7,602	
66期(2020年1月27日)	13,887	40		4.7	0.0	99.6	7,713	
67期(2020年2月25日)	14,746	40		6.5	0.0	99.7	8,065	
68期(2020年3月25日)	9,373	40	△	36.2	0.0	99.7	5,088	
69期(2020年4月27日)	9,911	40		6.2	0.0	99.6	5,615	
70期(2020年5月25日)	10,336	40		4.7	0.0	99.7	5,913	
71期(2020年6月25日)	10,787	40		4.8	0.0	99.7	6,101	
72期(2020年7月27日)	10,834	40		0.8	0.0	99.5	6,148	
73期(2020年8月25日)	11,113	40		2.9	0.0	99.5	6,201	
74期(2020年9月25日)	10,826	40	△	2.2	0.0	99.6	5,932	
75期(2020年10月26日)	10,611	40	△	1.6	0.0	99.4	5,741	

(注) 標準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しています。

当ファンドにベンチマークはなく、また当ファンドの運用方針に対して適切に比較できる指数もないため、ベンチマーク、参考指数を記載していません。

○当作成期中の基準価額と市況等の推移

決算期	年 月 日	基準 価 額		債 券 組 入 比 率	投 資 信 託 組 入 比 率
		騰 落 率	騰 落 率		
第70期	(期 首) 2020年4月27日	円	%	%	%
	4月末	9,911	—	0.0	99.6
	(期 末) 2020年5月25日	9,945	0.3	0.0	100.1
第71期	(期 首) 2020年5月25日	10,376	4.7	0.0	99.7
	5月末	10,336	—	0.0	99.7
	(期 末) 2020年6月25日	10,681	3.3	0.0	99.7
第72期	(期 首) 2020年6月25日	10,827	4.8	0.0	99.7
	6月末	10,787	—	0.0	99.7
	(期 末) 2020年7月27日	10,667	△1.1	0.0	99.3
第73期	(期 首) 2020年7月27日	10,874	0.8	0.0	99.5
	7月末	10,834	—	0.0	99.5
	(期 末) 2020年8月25日	10,704	△1.2	0.0	99.5
第74期	(期 首) 2020年8月25日	11,153	2.9	0.0	99.5
	8月末	11,113	—	0.0	99.5
	(期 末) 2020年9月25日	11,197	0.8	0.0	99.7
第75期	(期 首) 2020年9月25日	10,866	△2.2	0.0	99.6
	9月末	10,826	—	0.0	99.6
	(期 末) 2020年10月26日	11,130	2.8	0.0	99.6
		10,651	△1.6	0.0	99.4

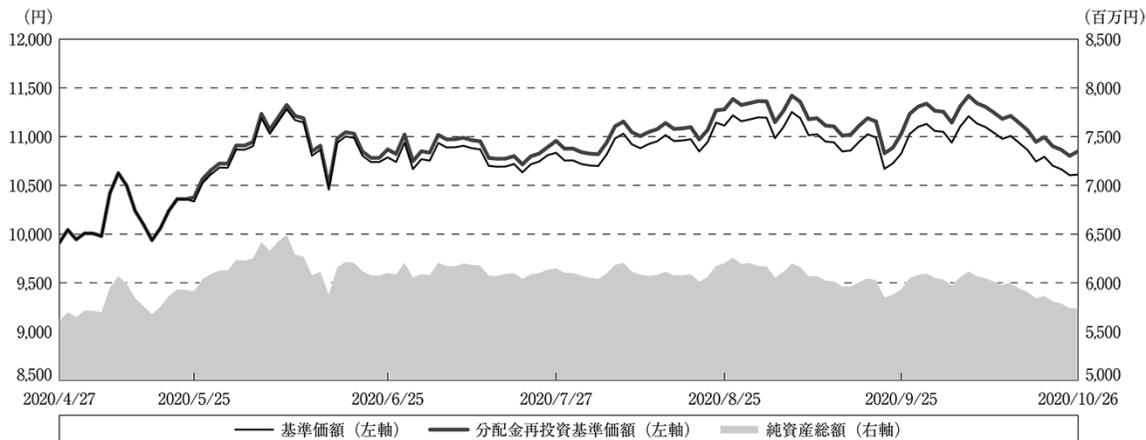
(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「債券組入比率」は実質比率を記載しています。

○運用経過

(2020年4月28日～2020年10月26日)

■作成期間中の基準価額等の推移



第70期首：9,911円

第75期末：10,611円(既払分配金(税込み):240円)

騰落率：9.5%(分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2020年4月27日)の値が基準価額と同一となるように指数化しています。

◇基準価額の主な変動要因

プラス要因

- ・政府による緊急事態宣言解除後の経済活動再開とともに、不動産賃貸市場の正常化が進展したこと
- ・政府による観光支援策「Go To トラベルキャンペーン」開始に伴う国内宿泊需要の回復
- ・J-REIT各社が物流施設等の物件を取得したことなどを背景とした分配金の増加

マイナス要因

- ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う景気後退リスクやオフィス需要減少に対する懸念の高まり
- ・J-REIT各社の公募増資が増加したことによる市場の需給環境の悪化
- ・円高米ドル安の進行

■投資環境

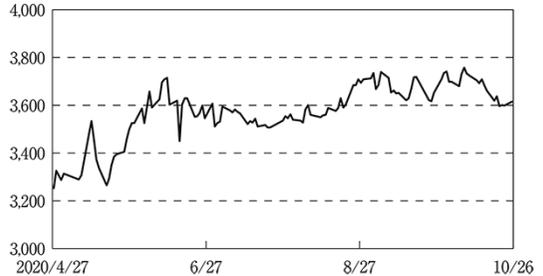
当作成期初から2020年6月初旬にかけて、一部のREITがテナントからの固定賃料支払い免除や減額を発表したことが嫌気され、J-REIT市場は下落する局面があったものの、全国で緊急事態宣言が解除されたことを受けて経済活動再開への期待が高まり、J-REIT市場は大きく上昇しました。

6月中旬から7月中旬にかけては、物流系REITによる分配金の増加につながる公募増資が相次ぐなか、世界的に新型コロナウイルスの感染再拡大が懸念されたことなどが嫌気され、J-REIT市場は弱含む展開となりました。

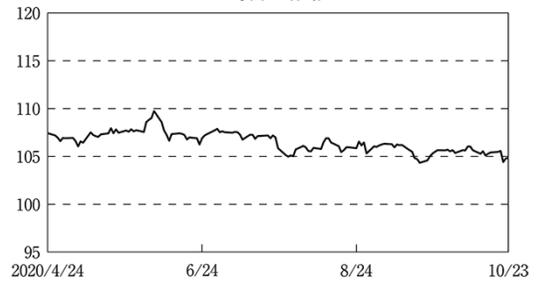
7月下旬から9月末にかけては、政府による観光支援策「Go To トラベルキャンペーン」の開始や経済活動の再開を受けて業績回復期待が高まり、商業施設系REITや宿泊施設系REITを中心に、J-REIT市場は上昇基調となりました。しかし、10月に入ると、大型公募増資による市場の需給悪化への懸念が強まり、J-REIT市場は下落したものの、前作成期末対比で上昇した水準で当作成期を終えました。

米ドル円為替レートは、新型コロナウイルス感染拡大に伴う景気悪化に対応した大規模な経済対策により米国の財政赤字が急拡大したことや、11月の米国大統領選挙でトランプ大統領が再選する可能性が低下したことなどを受けて米ドル安が進行し、前作成期末対比で円高米ドル安となりました。

東証REIT（配当込み）の推移



(円/米ドル) 為替の推移



(注) 為替レートはWMロイターを使用しており、基準価額算定の基準で記載しています。

■ポートフォリオについて

<東京海上J-REIT投信(通貨選択型)米ドルコース(毎月分配型)>

当ファンドは、「Tokio Marine J-REIT Fund-USDクラス」(以下、外国投資信託証券)および「東京海上マネープールマザーファンド」(以下、親投資信託)を投資対象とし、外国投資信託証券の組入比率を高位に保ちました。

当ファンドの基準価額(税引前分配金再投資)は、外国投資信託証券の値動きを反映し、9.5%上昇しました。

<外国投資信託証券>

J-REITの組入比率は、当作成期を通じて高位を維持しました。

運用にあたっては、J-REITの市場流動性(流動性基準)とスポンサー企業の信用力や財務健全性(信用リスク基準)に基づいて絞り込んだ銘柄を対象として、時価加重比率と売買金額加重比率を合成した銘柄投資比率によるポートフォリオを構築し、運用を行いました。

また、円売り/米ドル買いの為替取引を行い、実質的に米ドルの通貨比率を高位に保つ運用を行いました。

以上のような運用の結果、基準価額(分配金再投資)は、上昇しました。

【組入銘柄の概要(2020年9月末現在)】

特色(不動産種別)別構成 上位5位

	特色(不動産種別)	比率 %
1	複合・総合型(オフィス+住宅)	17.4
2	特化型(物流施設)	13.4
3	特化型(オフィス)	9.5
4	複合・総合型(住宅+ヘルスケア・病院)	9.2
5	複合・総合型(オフィス+住宅+ホテル・旅館+物流施設+商業施設+ヘルスケア・病院+その他)	6.8

組入上位10銘柄

	銘柄	特色(不動産種別)	比率 %
1	大和証券リビング投資法人	複合・総合型(住宅+ヘルスケア・病院)	9.2
2	平和不動産リート投資法人	複合・総合型(オフィス+住宅)	9.1
3	プレミア投資法人	複合・総合型(オフィス+住宅)	8.3
4	いちごオフィスリート投資法人	特化型(オフィス+その他)	6.5
5	GLP投資法人	特化型(物流施設)	5.0
6	ヒューリックリート投資法人	複合・総合型(オフィス+ホテル・旅館+商業施設+ヘルスケア・病院+その他)	4.8
7	野村不動産マスターファンド投資法人	複合・総合型(オフィス+住宅+ホテル・旅館+物流施設+商業施設+その他)	4.5
8	日本プロロジスリート投資法人	特化型(物流施設)	3.7
9	アドバンス・レジデンス投資法人	特化型(住宅)	3.4
10	産業ファンド投資法人	複合・総合型(物流施設+その他)	3.1
組入銘柄数		50銘柄	

※比率は、「Tokio Marine J-REIT Fund」の純資産総額に占める割合です。

※特色(不動産種別)は、一般社団法人 不動産証券化協会の分類によるものです。

※基準価額算定の基準で記載しています。

<親投資信託>

元本の安全性と流動性を重視して地方債を中心とする円建て公社債に投資し、プラスの収益の確保に努めました。その結果、基準価額はおおむね横ばいで推移しました。

■当ファンドのベンチマークとの差異

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けていません。

また、当ファンドの運用方針に対して適切に比較できる参考指数もないため、記載する事項はありません。

■分配金

当ファンドの収益分配方針に基づき、基準価額の水準や市況動向などを勘案して、次表の通りとしました。なお、収益分配に充てなかった収益については信託財産内に留保し、当ファンドの運用方針に基づいて運用を行います。

◇分配原資の内訳

(単位：円、1万口当たり、税込み)

項 目	第70期	第71期	第72期	第73期	第74期	第75期
	2020年4月28日～ 2020年5月25日	2020年5月26日～ 2020年6月25日	2020年6月26日～ 2020年7月27日	2020年7月28日～ 2020年8月25日	2020年8月26日～ 2020年9月25日	2020年9月26日～ 2020年10月26日
当期分配金 (対基準価額比率)	40 0.386%	40 0.369%	40 0.368%	40 0.359%	40 0.368%	40 0.376%
当期の収益	40	40	40	40	39	39
当期の収益以外	—	—	—	—	0	0
翌期繰越分配対象額	5,001	5,007	5,010	5,016	5,016	5,016

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

<東京海上J-REIT投信(通貨選択型)米ドルコース(毎月分配型)>

外国投資信託証券および親投資信託を投資対象とし、外国投資信託証券の組入比率を高位に保ちます。

<外国投資信託証券>

今後のJ-REIT市場では、新型コロナウイルスの感染収束後の経済活動の回復状況を織り込む展開となることを想定し、中長期的な賃貸市況の見通しおよびその変化によりセクター間でパフォーマンス格差が生じやすくなると考えます。しかし、J-REIT市場は株式市場と比較して新型コロナウイルスの感染拡大後の戻りが弱いことや、高利回りで魅力のある投資対象として投資家による買い戻しが期待できることから、市場全体としては今後底堅い相場展開になると考えます。

【オフィスビルの投資環境】

これまで順調であったオフィスビルの賃貸市況は、経営環境の悪化だけでなくリモートワークの増加もあり、テナント需要が伸び悩んでいます。また、都心では大手不動産開発会社を中心にオフィスビルの新規供給が進められ、賃貸環境の悪化が見込まれることから、中期的にJ-REIT市場に悪影響を与えると考えます。

【賃貸住宅の投資環境】

賃貸住宅の賃貸市況では、都心の高級賃貸住宅などは稼働率が低下しているものの、賃料水準が上昇していない物件であれば、長期的に高い稼働率の維持が可能となり、従来通り安定した賃料収入が得られると考えます。このため、賃貸住宅の賃貸環境は今後も堅調を維持すると想定します。

【物流施設の投資環境】

物流施設はインターネット取引の拡大が加速する動きが強まったことから、旺盛なテナントの賃貸需要が続いています。このため、安定したキャッシュフローや賃料上昇への期待から、多様な投資家による物件投資ニーズが拡大しており、引き続きJ-REIT市場を牽引する重要な存在であると考えます。

【ホテルの投資環境】

ホテルなどの宿泊施設は、2020年4月の緊急事態宣言により一時的に経営が厳しい状況となりましたが、足元では経済活動の再開や、政府による観光支援策「Go To トラベルキャンペーン」の効果もあり、業績が一定程度回復する宿泊施設が増えています。今後もホテルなどの宿泊施設の業績回復が見込まれることから、ホテルの賃貸市況は改善すると想定します。

【商業施設の投資環境】

新型コロナウイルス感染拡大が業績に与える影響は、都市型商業施設と郊外型商業施設では大きく異なります。足元では郊外型商業施設は前年並みの水準まで業績が回復している一方、インバウンド向け店舗や飲食店関連の多い都市型商業施設では業績が厳しい状況にあります。このため、都市型商業施設を保有するJ-REITにおいては、今後高い運営能力が求められると考えます。

J-REIT市場の需給環境については、公募増資の増加により短期的に需給が悪化する可能性もありますが、インカムゲインを求める機関投資家を中心に投資需要は回復しつつあることから、底堅い状況が続くと考えます。

このような投資環境下、引き続きJ-REITの市場流動性とスポンサー企業の信用力や財務健全性に基づいて絞り込んだ銘柄を対象として、時価加重比率と売買金額加重比率を組み合わせた銘柄投資比率でポートフォリオを構築し、中長期的にJ-REIT市場全体の動きをおおむね捉える運用を機動的に行う方針です。

また、円売り／米ドル買いの為替取引を行い、実質的に米ドルの通貨比率を高位に保つ運用を行う方針です。

<親投資信託>

国内の短期金利は、日銀が当面は緩和的な政策を継続するとの見方から、マイナス水準にとどまると予想しています。

このような環境下、政府保証債や地方債を中心とする円建て公社債およびコマーシャル・ペーパーを主要投資対象として運用することにより、プラスの収益の確保もしくはマイナス幅を極力最小化するように努める方針です。

○ 1万口当たりの費用明細

(2020年4月28日～2020年10月26日)

項 目	第70期～第75期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 37	% 0.343	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(9)	(0.082)	* 委託した資金の運用、基準価額の計算、目論見書作成等の対価
(販 売 会 社)	(26)	(0.247)	* 購入後の情報提供、運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続き等の対価
(受 託 会 社)	(1)	(0.014)	* 運用財産の保管・管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) そ の 他 費 用	1	0.005	(b) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(監 査 費 用)	(1)	(0.005)	* 監査費用は、監査法人に支払うファンドの監査に係る費用
合 計	38	0.348	
作成期間の平均基準価額は、10,720円です。			

(注) 作成期間の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入しています。

(注) その他費用は、当ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

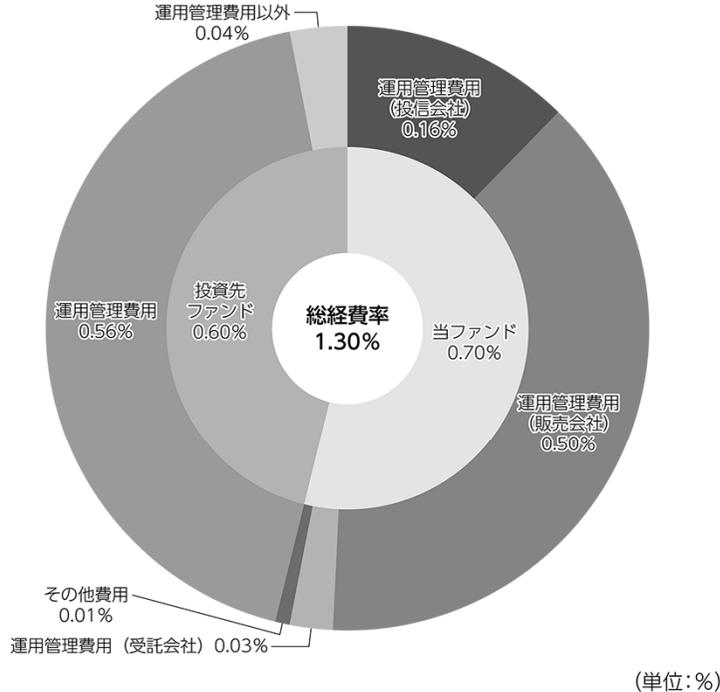
(注) 各項目の費用は、このファンドが組み入れている投資信託証券(親投資信託を除く。)が支払った費用を含みません。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(参考情報)

○総経費率

作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.30%です。



総経費率(①+②+③)	1.30
①当ファンドの費用の比率	0.70
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.56
③投資先ファンドの運用管理費用以外の比率	0.04

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。

(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。

(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

(注) 投資先ファンドの費用は、「Tokio Marine J-REIT Fund」の費用を基に算出しています。

○売買及び取引の状況

(2020年4月28日～2020年10月26日)

投資信託証券

銘			柄			第70期～第75期			
						買付		売付	
						口数	金額	口数	金額
外国 (邦貨建)	ケイマン	Tokio Marine J-REIT Fund-USDクラス	千口	千円	千口	千円			
			28	307,999	55	613,000			

(注) 金額は受渡代金です。

○利害関係人との取引状況等

(2020年4月28日～2020年10月26日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2020年10月26日現在)

ファンド・オブ・ファンズが組入れた邦貨建ファンドの明細

銘		第69期末		第75期末		
		口数	口数	口数	評価額	比率
		千口	千口	千円		%
	Tokio Marine J-REIT Fund-USDクラス	563	536	5,706,584		99.4
	合計	563	536	5,706,584		99.4

(注) 比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

親投資信託残高

銘		第69期末		第75期末	
		口数	口数	口数	評価額
		千口	千口	千円	
	東京海上マネープールマザーファンド	9	9	10	

○投資信託財産の構成

(2020年10月26日現在)

項 目	第75期末	
	評 価 額	比 率
	千円	%
投資信託受益証券	5,706,584	98.6
東京海上マネープールマザーファンド	10	0.0
コール・ローン等、その他	78,460	1.4
投資信託財産総額	5,785,054	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項 目	第70期末	第71期末	第72期末	第73期末	第74期末	第75期末
	2020年5月25日現在	2020年6月25日現在	2020年7月27日現在	2020年8月25日現在	2020年9月25日現在	2020年10月26日現在
	円	円	円	円	円	円
(A) 資産	5,945,490,348	6,139,341,362	6,180,890,585	6,276,597,863	5,964,405,041	5,785,054,538
コール・ローン等	47,159,431	58,565,888	54,458,252	97,176,965	51,513,650	63,459,828
投資信託受益証券(評価額)	5,893,320,914	6,080,765,471	6,119,422,330	6,171,410,895	5,909,881,389	5,706,584,707
東京海上マネープールマザーファンド(評価額)	10,003	10,003	10,003	10,003	10,002	10,003
未収入金	5,000,000	—	7,000,000	8,000,000	3,000,000	15,000,000
(B) 負債	31,660,622	37,436,889	32,485,642	75,197,406	31,774,900	43,372,138
未払金	—	2,000,000	—	45,000,000	—	—
未払収益分配金	22,887,084	22,627,010	22,700,384	22,320,691	21,920,202	21,643,750
未払解約金	5,674,768	9,145,134	6,038,841	4,492,041	6,247,696	18,194,327
未払信託報酬	3,049,885	3,609,625	3,691,345	3,329,473	3,551,922	3,479,022
未払利息	122	120	72	201	80	39
その他未払費用	48,763	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000
(C) 純資産総額(A-B)	5,913,829,726	6,101,904,473	6,148,404,943	6,201,400,457	5,932,630,141	5,741,682,400
元本	5,721,771,226	5,656,752,621	5,675,096,091	5,580,172,931	5,480,050,609	5,410,937,522
次期繰越損益金	192,058,500	445,151,852	473,308,852	621,227,526	452,579,532	330,744,878
(D) 受益権総口数	5,721,771,226口	5,656,752,621口	5,675,096,091口	5,580,172,931口	5,480,050,609口	5,410,937,522口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,336円	10,787円	10,834円	11,113円	10,826円	10,611円

(注) 当ファンドの第70期首元本額は5,666,111,491円、第70～75期中追加設定元本額は418,789,309円、第70～75期中一部解約元本額は673,963,278円です。

(注) 上記表中の次期繰越損益金が△表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

(注) 上記表中の1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第11号に規定する計算口数当たりの純資産の額となります。

○損益の状況

項 目	第70期	第71期	第72期	第73期	第74期	第75期
	2020年4月28日～ 2020年5月25日	2020年5月26日～ 2020年6月25日	2020年6月26日～ 2020年7月27日	2020年7月28日～ 2020年8月25日	2020年8月26日～ 2020年9月25日	2020年9月26日～ 2020年10月26日
	円	円	円	円	円	円
(A) 配当等収益	26,093,774	25,619,898	25,863,175	25,331,691	25,069,265	24,716,807
受取配当金	26,096,345	25,623,449	25,864,865	25,333,446	25,072,086	24,718,306
受取利息	223	44	565	187	176	19
支払利息	△ 2,794	△ 3,595	△ 2,255	△ 1,942	△ 2,997	△ 1,518
(B) 有価証券売買損益	241,859,323	249,467,624	26,763,376	154,485,385	△ 157,316,558	△ 116,004,159
売買益	243,024,175	264,133,521	27,880,381	156,018,087	1,028,706	1,508,505
売買損	△ 1,164,852	△ 14,665,897	△ 1,117,005	△ 1,532,702	△ 158,345,264	△ 117,512,664
(C) 信託報酬等	△ 3,098,648	△ 3,664,625	△ 3,746,345	△ 3,384,473	△ 3,606,922	△ 3,534,022
(D) 当期損益金(A+B+C)	264,854,449	271,422,897	48,880,206	176,432,603	△ 135,854,215	△ 94,821,374
(E) 前期繰越損益金	△ 1,333,799,632	△ 1,056,596,294	△ 792,223,080	△ 744,884,165	△ 578,844,620	△ 723,822,323
(F) 追加信託差損益金	1,283,890,767	1,252,952,259	1,239,352,110	1,211,999,779	1,189,198,569	1,171,032,325
(配当等相当額)	(1,606,644,046)	(1,614,397,058)	(1,646,684,158)	(1,631,625,678)	(1,604,297,336)	(1,589,129,830)
(売買損益相当額)	(△ 322,753,279)	(△ 361,444,799)	(△ 407,332,048)	(△ 419,625,899)	(△ 415,098,767)	(△ 418,097,505)
(G) 計(D+E+F)	214,945,584	467,778,862	496,009,236	643,548,217	474,499,734	352,388,628
(H) 収益分配金	△ 22,887,084	△ 22,627,010	△ 22,700,384	△ 22,320,691	△ 21,920,202	△ 21,643,750
次期繰越損益金(G+H)	192,058,500	445,151,852	473,308,852	621,227,526	452,579,532	330,744,878
追加信託差損益金	1,283,890,767	1,252,952,259	1,239,352,110	1,211,999,779	1,189,198,569	1,171,032,325
(配当等相当額)	(1,606,644,046)	(1,614,397,058)	(1,646,684,158)	(1,631,625,678)	(1,604,297,336)	(1,589,129,830)
(売買損益相当額)	(△ 322,753,279)	(△ 361,444,799)	(△ 407,332,048)	(△ 419,625,899)	(△ 415,098,767)	(△ 418,097,505)
分配準備積立金	1,255,237,850	1,218,312,881	1,196,974,879	1,167,656,024	1,144,654,691	1,125,020,664
繰越損益金	△ 2,347,070,117	△ 2,026,113,288	△ 1,963,018,137	△ 1,758,428,277	△ 1,881,273,728	△ 1,965,308,111

(注) (B) 有価証券売買損益は、各期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (C) 信託報酬等は、消費税等相当額を含めて表示しています。

(注) (F) 追加信託差損益金は、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分です。

(注) 分配金の計算過程は以下の通りです。

項 目	第70期	第71期	第72期	第73期	第74期	第75期
	2020年4月28日～ 2020年5月25日	2020年5月26日～ 2020年6月25日	2020年6月26日～ 2020年7月27日	2020年7月28日～ 2020年8月25日	2020年8月26日～ 2020年9月25日	2020年9月26日～ 2020年10月26日
a. 配当等収益(費用控除後)	25,791,968円	25,278,723円	24,022,222円	24,854,822円	21,462,344円	21,182,786円
b. 有価証券等損益額(費用控除後)	0円	0円	0円	0円	0円	0円
c. 信託約款に規定する収益調整金	1,606,644,046円	1,614,397,058円	1,646,684,158円	1,631,625,678円	1,604,297,336円	1,589,129,830円
d. 信託約款に規定する分配準備積立金	1,252,332,966円	1,215,661,168円	1,195,653,041円	1,165,121,893円	1,145,112,549円	1,125,481,628円
e. 分配対象収益(a+b+c+d)	2,884,768,980円	2,855,336,949円	2,866,359,421円	2,821,602,393円	2,770,872,229円	2,735,794,244円
f. 分配対象収益(1万口当たり)	5,041円	5,047円	5,050円	5,056円	5,056円	5,056円
g. 分配金	22,887,084円	22,627,010円	22,700,384円	22,320,691円	21,920,202円	21,643,750円
h. 分配金(1万口当たり)	40円	40円	40円	40円	40円	40円

○分配金のお知らせ

	第70期	第71期	第72期	第73期	第74期	第75期
1万円当たり分配金(税込み)	40円	40円	40円	40円	40円	40円

(注) 分配落ち後の基準価額が個別元本と同額または上回る場合は、分配金は全額普通分配金となります。

(注) 分配前の基準価額が個別元本を上回り、分配後の基準価額が個別元本を下回る場合は、分配金は個別元本を上回る部分が普通分配金、下回る部分が元本払戻金(特別分配金)となります。

(注) 分配前の基準価額が個別元本と同額または下回る場合は、分配金は全額元本払戻金(特別分配金)となります。

(注) 元本払戻金(特別分配金)が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金(特別分配金)を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

- 当ファンドは特化型運用を行います。特化型ファンドとは、投資対象に一般社団法人投資信託協会の規則に定める支配的な銘柄が存在し、または存在することとなる可能性が高いファンドをいいます。
- 当ファンドの主要投資対象には寄与度(投資対象候補銘柄の時価総額に占める割合)が10%を超えるまたは超える可能性の高い支配的な銘柄が存在するため、特定の銘柄への投資が集中することがあり、当該支配的な銘柄に経営破綻や経営・財務状況の悪化等が生じた場合には、大きな損失が発生することがあります。

<参考情報>

Tokio Marine J-REIT Fund (JPYクラス/AUDクラス/BRLクラス/IDRクラス/USDクラス/MXNクラス) (外国投資信託 ケイマン諸島籍) の運用状況

Tokio Marine J-REIT Fundは、「東京海上J-REIT投信(通貨選択型)」が投資対象とする外国投資信託証券です。

当ファンドの仕組みは次の通りです。

形態	ケイマン諸島籍契約型外国投資信託/円建て
運用方針	日本の取引所に上場(これに準ずるものを含みます。)されているJ-REITを主要投資対象として、J-REIT市場全体の中長期的な動きを概ね捉えるとともに、各クラス(JPYクラスを除く)で定められた通貨(AUDクラス=豪ドル、BRLクラス=ブラジルレアル、IDRクラス=インドネシアルピア、USDクラス=米ドル、MXNクラス=メキシコペソ)への投資効果を追求します。 J-REITへの投資にあたっては、J-REIT市場における時価総額構成比を基本としつつ、流動性・信用力等を勘案して各銘柄に対する投資比率を適宜調整します。なお、運用の効率性の観点から、指数先物取引等を用いる場合があります。
主な投資制限	<ul style="list-style-type: none"> ・空売りを行った有価証券の時価総額は純資産総額を超えないものとします。 ・原則として、純資産総額の10%を超える借入れは行わないものとします。 ・同一発行体の投資信託証券への投資割合は、信託財産の純資産総額の35%を超えないものとします。
収益分配	毎月、投資顧問会社と協議の上、受託会社の判断により分配を行うことができます。
信託期間	原則として2025年10月17日まで
決算日	原則として毎年3月25日
信託報酬等	ファンドの純資産総額に対し年率0.56%を乗じて得た額が投資顧問会社、受託会社、保管銀行ならびに事務代行会社への報酬の合計額としてファンドから支払われます。この他、ファンドは、ファンドの設立に係る費用(3年を超えない期間にわたり償却)、組入有価証券の売買委託手数料等の取引に要する費用、組入有価証券の保管に要する費用、信託財産に関する租税、監査報酬、法的費用等を負担します。
関係法人	受託会社: Global Funds Trust Company 保管銀行、事務代行会社: Nomura Bank (Luxembourg) S.A. 投資顧問会社: 東京海上アセットマネジメント株式会社

※資金動向および市況動向等によっては、上記のような運用ができない場合があります。

(1) 損益計算書

2019年3月26日
～2020年3月25日

(円)

収益

銀行口座に係る受取利息	85,910
受取配当金（税控除後）	2,497,601,148
収益合計	2,497,687,058

費用

投資顧問料	374,898,078
事務管理報酬	91,389,220
保管費用	27,464,908
銀行口座に係る支払利息	7,046,647
取引銀行報酬	10,965,856
銀行手数料	6,750,600
受託費用	18,288,196
法務報酬	386,741
立替費用	9,137,693
専門家報酬	1,533,672
印刷費用	150,773
その他費用	155,436
費用合計	548,167,820

投資純収益

1,949,519,238

投資に係る実現純利益

10,547,431,343

外国通貨、外国為替先渡契約に係る実現純損失

(3,463,134,921)

当期実現純利益

7,084,296,422

投資に係る未実現評価損益の変動額

(17,973,021,893)

外国為替先渡契約に係る未実現評価損益の変動額

(3,914,970,369)

当期未実現損失

(21,887,992,262)

運用の結果による純資産の純減額

(12,854,176,602)

(2020年3月25日現在)

	1口当たり純資産価格	発行済み受益証券数	純資産残高
AUDクラス	10,355	1,411,453	14,615,894,363
JPYクラス	14,376	1,280,663	18,411,241,044
IDRクラス	8,700	496,682	4,321,121,929
BRLクラス	3,611	3,496,301	12,626,661,542
USDクラス	10,578	872,037	9,224,712,472
MXNクラス	5,309	127,379	676,282,322

(Nomura Bank (Luxembourg) S.A. 提供の監査財務諸表より作成)

(2) 組入有価証券の明細

2020年3月25日現在

銘 柄 名	比 率 (%)
日本賃貸住宅投資法人	10.7
野村不動産マスターファンド投資法人	9.5
平和不動産リート投資法人	8.9
プレミア投資法人	8.1
ヒューリックリート投資法人	8.0
いちごオフィスリート投資法人	7.6
ケネディクス・オフィス投資法人	6.2
GLP投資法人	6.1
アドバンス・レジデンス投資法人	5.1
日本プロロジスリート投資法人	4.7
アクティビア・プロパティーズ投資法人	3.3
大和証券オフィス投資法人	2.6
S O S i L A物流リート投資法人	2.2
三井不動産ロジスティクスパーク投資法人	1.8
日本ビルファンド投資法人	1.7
インベスコ・オフィス・ジェイリート投資法人	1.7
ジャパンリアルエステイト投資法人	1.7
森ヒルズリート投資法人	1.6
三菱地所物流リート投資法人	1.1
積水ハウス・リート投資法人	1.1
コンフォリア・レジデンシャル投資法人	0.8
グローバル・ワン不動産投資法人	0.7
伊藤忠アドバンス・ロジスティクス投資法人	0.6
CRE ロジスティクスファンド投資法人	0.5
ケネディクス・レジデンシャル・ネクスト投資法人	0.4
MCUBS M i d C i t y 投資法人	0.2
オリックス不動産投資法人	0.2
日本リート投資法人	0.2
日本アコモデーションファンド投資法人	0.1
産業ファンド投資法人	0.1
日本ブライムリアルティ投資法人	0.1
東急リアル・エステート投資法人	0.0
大和ハウスリート投資法人	0.0
日本ロジスティクスファンド投資法人	0.0
フロンティア不動産投資法人	0.0
日本リテールファンド投資法人	0.0
ラサールロジポート投資法人	0.0
森トラスト総合リート投資法人	0.0
ジャパンエクセレント投資法人	0.0
ユナイテッド・アーバン投資法人	0.0
イオンリート投資法人	0.0
福岡リート投資法人	0.0
阪急阪神リート投資法人	0.0
ケネディクス商業リート投資法人	0.0
星野リゾート・リート投資法人	0.0
森トラスト・ホテルリート投資法人	0.0
Oneリート投資法人	0.0
スターツプロシード投資法人	0.0
サムティ・レジデンシャル投資法人	0.0
投資法人みらい	0.0
合計 (銘柄数・比率)	50
	97.9

(注) 事務代行会社である「Nomura Bank (Luxembourg) S.A.」からの情報を受け、その内容を記載しています。

(注) 比率は純資産総額に占める割合です。

(注) 株式・新株予約権証券および株式の性質を有するオプション証券等の組み入れはありません。

東京海上マネープールマザーファンド

運用報告書 第10期 (決算日 2020年10月26日)

(計算期間 2019年10月26日～2020年10月26日)

ここに、法令・諸規則に基づき、当マザーファンド（親投資信託）の直前の計算期間にかかる運用状況をご報告申し上げます。

東京海上アセットマネジメント

原則、各表の数量、金額の単位未満は切り捨て、比率は四捨五入で表記していますので、表中の個々の数字の合計が合計欄の値と一致しない場合があります。ただし、単位未満の数値については小数を表記する場合があります。また、一印は組み入れまたは売買がないことを示しています。

○最近5期の運用実績

決算期	基準価額		参考指数	債組入比率	純資産額
	騰落	中率			
	円	%		%	百万円
6期(2016年10月25日)	10,035	0.0	100.37	107.0	69
7期(2017年10月25日)	10,033	△0.0	100.32	115.3	36
8期(2018年10月25日)	10,033	0.0	100.26	57.6	125
9期(2019年10月25日)	10,032	△0.0	100.20	82.4	37
10期(2020年10月26日)	10,034	0.0	100.17	84.0	45

○当期中の基準価額と市況等の推移

年月日	基準価額		参考指数	債組入比率
	騰落	率		
(期首) 2019年10月25日	円	%		%
10月末	10,032	—	100.20	82.4
11月末	10,033	0.0	100.20	69.9
12月末	10,033	0.0	100.20	68.1
2020年1月末	10,031	△0.0	100.20	62.4
2月末	10,030	△0.0	100.19	88.7
3月末	10,032	0.0	100.19	88.7
4月末	10,033	0.0	100.19	57.9
5月末	10,033	0.0	100.19	58.0
6月末	10,034	0.0	100.18	62.2
7月末	10,034	0.0	100.18	52.9
8月末	10,034	0.0	100.18	77.6
9月末	10,034	0.0	100.17	70.5
(期末) 2020年10月26日	10,033	0.0	100.17	79.7
	10,034	0.0	100.17	84.0

(注) 騰落率は期首比です。

参考指数は、無担保コール翌日物金利です。無担保コール翌日物金利は、設定日を100として指数化したものです。

○運用経過

(2019年10月26日～2020年10月26日)

■期中の基準価額等の推移

期首：10,032円

期末：10,034円

騰落率： 0.0%

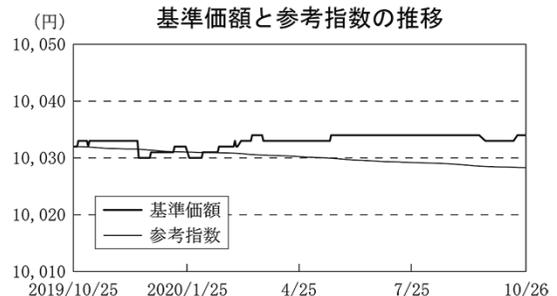
◇基準価額の主な変動要因

プラス要因

- ・安定した利息収入の獲得

マイナス要因

- ・保有する債券の評価損



(注) 参考指数は、期首(2019年10月25日)の値が基準価額と同一となるように指数化したものです。

(注) 参考指数は、無担保コール翌日物金利です。

■投資環境

当期の短期金融市場は、日銀が「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」を維持したことで、短期金融市場金利はマイナス圏で推移しました。金融緩和の度合いを知る上で着目する日銀の当座預金残高は、390兆円から490兆円程度へと拡大しており、短期金融市場の資金余剰感は非常に強くなりました。

このような状況下、無担保コール翌日物金利は-0.07%台半ばから-0.01%程度で推移しました。また、3カ月物の短期国債利回りは、-0.44%程度から-0.06%程度で推移しました。

■ポートフォリオについて

元本の安全性と流動性を重視し、地方債を中心とする円建て公社債に投資し、プラスの収益の確保に努めました。その結果、基準価額はおおむね横ばいで推移しました。

○今後の運用方針

国内の短期金利は、日銀が当面は緩和的な政策を継続するとの見方から、マイナス水準にとどまると予想しています。

このような環境下、政府保証債や地方債を中心とする円建て公社債およびコマーシャル・ペーパーを主要投資対象として運用することにより、プラスの収益の確保もしくはマイナス幅を極力最小化するように努める方針です。

○1万口当たりの費用明細

(2019年10月26日～2020年10月26日)

該当事項はございません。

○売買及び取引の状況

(2019年10月26日～2020年10月26日)

公社債	
-----	--

		買付額	売付額
国内	地方債証券	千円 141,158	千円 — (133,250)

(注) 金額は受渡代金です。(経過利子分は含まれていません)

(注) ()内は償還による減少分です。

○利害関係人との取引状況等

(2019年10月26日～2020年10月26日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○組入資産の明細

(2020年10月26日現在)

国内公社債

(A) 国内(邦貨建)公社債 種類別開示

区 分	当 期			末			
	額 面 金 額	評 価 額	組 入 比 率	うちBB格以下 組 入 比 率	残存期間別組入比率		
					5年以上	2年以上	2年未満
	千円	千円	%	%	%	%	%
地方債証券	38,300 (38,300)	38,324 (38,324)	84.0 (84.0)	— (—)	— (—)	— (—)	84.0 (84.0)
合 計	38,300 (38,300)	38,324 (38,324)	84.0 (84.0)	— (—)	— (—)	— (—)	84.0 (84.0)

(注) ()内は非上場債で内書きです。

(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 評価については金融商品取引業者、価格情報会社等よりデータを入手しています。

(B) 国内(邦貨建)公社債 銘柄別開示

銘 柄	当 期			末	
	利 率	額 面 金 額	評 価 額	償 還 年 月 日	
地方債証券	%	千円	千円		
第32回兵庫県民債	0.14	5,200	5,199	2020/10/30	
平成22年度第1回新潟県公募公債	1.05	6,100	6,105	2020/11/30	
平成22年度第2回熊本県公募公債(10年)	0.93	10,000	10,000	2020/10/28	
平成22年度第1回相模原市公募公債	1.29	10,000	10,018	2020/12/18	
平成27年度第1回鹿児島県公募公債(5年)	0.116	7,000	7,000	2020/10/30	
合 計		38,300	38,324		

(注) 株式、新株予約権証券および株式の性質を有するオプション証券等の組み入れはありません。

○投資信託財産の構成

(2020年10月26日現在)

項 目	当 期	
	評 価 額	比 率
	千円	%
公社債	38,324	84.0
コール・ローン等、その他	7,292	16.0
投資信託財産総額	45,616	100.0

○資産、負債、元本及び基準価額の状況 (2020年10月26日現在)

項 目	当 期 末
	円
(A) 資産	45,616,342
コール・ローン等	7,166,972
公社債(評価額)	38,324,622
未収利息	30,491
前払費用	94,257
(B) 負債	4
未払利息	4
(C) 純資産総額(A-B)	45,616,338
元本	45,463,273
次期繰越損益金	153,065
(D) 受益権総口数	45,463,273口
1万口当たり基準価額(C/D)	10,034円

(注) 当親ファンドの期首元本額は36,963,093円、期中追加設定元本額は14,984,869円、期中一部解約元本額は6,484,689円です。(元本の内訳)

東京海上J-REIT投信(通貨選択型) マナープール・ファンド(年2回決算型) 34,427,381円
 東京海上J-REIT投信(通貨選択型) ブラジルリアルコース(毎月分配型) 2,999,301円
 東京海上J-REIT投信(通貨選択型) 円コース(毎月分配型) 1,000,000円
 東京海上J-REIT投信(通貨選択型) インドネシアリアルコース(毎月分配型) 1,000,000円
 東京海上J-REIT投信(通貨選択型) インドネシアリアルコース(年2回決算型) 1,000,000円
 東京海上J-REIT投信(通貨選択型) 豪ドルコース(年2回決算型) 1,000,000円
 東京海上J-REIT投信(通貨選択型) 円コース(年2回決算型) 1,000,000円
 東京海上J-REIT投信(通貨選択型) 豪ドルコース(毎月分配型) 1,000,000円
 東京海上J-REIT投信(通貨選択型) ブラジルリアルコース(年2回決算型) 1,000,000円
 東京海上・世界モノポリー戦略株式ファンド(毎月決算型) 996,711円
 東京海上J-REIT投信(通貨選択型) 米ドルコース(毎月分配型) 9,970円
 東京海上J-REIT投信(通貨選択型) メキシコベソコース(毎月分配型) 9,970円
 東京海上J-REIT投信(通貨選択型) 米ドルコース(年2回決算型) 9,970円
 東京海上J-REIT投信(通貨選択型) メキシコベソコース(年2回決算型) 9,970円

(注) 上記表中の次期繰越損益金が△表示の場合は、当該金額が投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第10号に規定する額(元本の欠損)となります。

(注) 上記表中の1万口当たり基準価額が、投資信託財産の計算に関する規則第55条の6第11号に規定する計算口数当たりの純資産の額となります。

○損益の状況 (2019年10月26日～2020年10月26日)

項 目	当 期
	円
(A) 配当等収益	137,920
受取利息	147,052
支払利息	△ 9,132
(B) 有価証券売買損益	△132,863
売買益	3,414
売買損	△136,277
(C) 当期損益金(A+B)	5,057
(D) 前期繰越損益金	120,017
(E) 追加信託差損益金	49,832
(F) 解約差損益金	△ 21,841
(G) 計(C+D+E+F)	153,065
次期繰越損益金(G)	153,065

(注) (B)有価証券売買損益は、期末の評価換えによるものを含みます。

(注) (E)追加信託差損益金は、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分です。

(注) (F)解約差損益金は、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分です。